

(様式) 平成25年度徳島県立阿波高等学校：「学力・学習状況」改善プラン

1 学力向上推進員 職・氏名 (省略)

2 学力向上検討委員会構成

職名	氏名
	省略

3 現状・課題

学力	本校には、概ね基礎学力を持った生徒が入学してくる。しかし校外模試などの結果を分析してみると、十分にその学力を伸ばしているとは言い難い。教師の教科指導力をより一層高め、学年団と各教科との連携を深めることによって、生徒の学力のさらなる向上を図る必要がある。
学習状況	家庭学習が十分でない生徒の割合が高い。またその一方で3年生では、受験勉強のスタートが遅れてしまったことで不安や焦りを感じていると回答する生徒も依然として多い。早期に生徒個々に望ましい学習習慣を定着させ、学力向上につなげていくことが課題である。
進路	進路希望は若干多様化しつつあるものの、多くの生徒が国公立大学への入学を希望している。しかしながら昨年度の国公立大学合格者数は延べ55名であり、数値目標を達成することはできなかった。今後は、さらに多くの生徒の第一希望が実現できるように、全教員が一丸となって取り組んでいかなければならない。

4 目標等

(1) 学力について

国語科					
重点目標：現代文および古典を理解するための能力や、論理的に自己の考えを表現できる能力を育成する。					
学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
1	①基礎的知識の理解と定着を図る。	①校外模試で全国平均を上回る生徒の割合の増加、または維持。	①-1 基礎的な知識の理解と定着を図るため、適宜小テストを実施し、不合格者には課題を与え、提出を義務づける。 ①-2 定期テストや課題テストの前の学習課題を提出させ、家庭学習時間を確保する。	4・3・2・1	
2	①基礎学力の定着を図り読解力を養成する。	①校外模試で全国平均を上回る生徒の割合30パーセント以上。	①-1 基礎的な知識の理解と定着を図るため、適宜小テストを実施し、不合格者には追試を行う。 ①-2 教材の工夫を行うなど、読解力の養成に資する授業を展開する。	4・3・2・1	
3	①応用力を高め、入試問題に対応できる実力を養成する。	①大学入試センター試験の校内平均点が全国平均点を上回る。	①-1 読解力をさらに向上させるための授業を展開し、得点力の向上を図る。 ②-2 授業時に小テストを実施し、語彙力や文法力、句法力のより一層の充実を図る。	4・3・2・1	

地歴・公民科					
重点目標：社会の成り立ちや諸課題について関心を持たせ、それらについて自ら考察する資質を育成する。					
学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
1	① 学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着を図る。	① ノートや課題等の提出率100%。	① 定期考査前に学習課題を準備し、提出させる。	4・3・2・1	
	② 現代社会のさまざまな課題について関心を持たせる。	② 現代社会のさまざまな課題についての自由研究の提出率100%。	② 現代社会のさまざまな課題について、テーマを設定し、自由研究を作成・提出させる。	4・3・2・1	
2	① 基礎的な学力の定着を図る。	① 校外模試で全国平均を上回る生徒の割合の増加または維持。	① 定期考査や校外模試の分析を行い、その結果を授業にフィードバックすることにより、より質の高い授業を展開する。	4・3・2・1	
	① 基礎的な学力の定着及び、考察の向上を図る。	① 大学入試センター試験の平均点を前年を上回る。	① -1 生徒との面談や模試の結果分析を綿密に行い、生徒に応じた授業を工夫する。 ① -2 現代社会の諸課題に関心をもち、小論文等にも対応できるような題材の提供や問題演習を行う。	4・3・2・1	

数学科					
重点目標：数学の原理や法則を体系的に理解し、それらを積極的に活用できる能力を育成する。					
学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
1	① 学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着を図る。	① 基礎学力の徹底を図る。数学に苦手意識をもっていない生徒の割合が50%以上。 ② スタディサポートのB1以上とB3以上の人数、進研模試の偏差値50以上と42以上の人数をそれぞれ維持する。	① -1 毎日の課題（日々題）と学習習慣の課題で、基礎の反復練習を徹底する。 ① -2 週末課題について、週明けに確認テストを実施する。 ② 7限目の補習や休業中の補習で問題演習を行い、校外模試での得点力アップを図る。	4・3・2・1	
	① 基礎学力の定着と論理的思考力を伸ばす。	① 校外模試で1年1月と比較して、偏差値50以上の人数を維持し、44以上の生徒を50に近づける。	① -1 日々の課題とクリアの課題で反復練習を行い、基礎・基本の徹底を図る。 ① -2 定期考査や模擬試験の結果分析を綿密に行い、弱点に焦点を当てた授業を展開する。	4・3・2・1	
	① 基礎学力および応用力の充実を図る。	① 大学入試センター試験において、国公立志望者の平均	① 模擬試験の結果分析を綿密に行い、授業や補習により、生徒の学力の伸長を図る。		

3		点と、全国平均点との差を5点以内にす	4・3・2・1
---	--	--------------------	---------

理科					
重点目標：科学的事象への興味の喚起，基礎学力の定着を徹底し，思考力を高める。					
学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
1	①高校理科に基礎学力の定着を図り、学習意欲を喚起する。	①問題集や課題の提出率 100%。	①家庭学習を行う習慣を身につけさせ、基礎・基本を繰り返し演習することができるよう、問題集を活用したり、学習プリントを配布したりして、生徒の学力の伸長を図る。	4・3・2・1	
2	①それぞれのおい意欲を喚起する現象の理解を深める。	①各科目の授業演習または生徒実験や ICT を活用した授業を 1 講座につき年間 5 回以上。	①各科目の授業において、演習または生徒実験や、視聴覚教材を用いた授業を開講することにより、科目に対する理解を深め、興味を喚起し、自己学習につなげる。	4・3・2・1	
3	①各科目において知識の定着を図るとともに、科学的考察力を身に付ける。	①センター試験において、各科目の全国平均点を上回る生徒の割合が前年度以上。	①-1 定期考査や模擬試験の結果等を参考にしながら、生徒の弱点を分析し、そこに焦点を当てた授業展開を行う。 ①-2 特に理系志望者には、早い段階で、将来の学びと連結し、科目内容を捉えさせ、学習意欲のさらなる喚起を図る。 ①-3 必要に応じて特別補習や学習の機会を持つことにより、生徒の理解を助ける。 ①-4 早朝・放課後補習の内容をさらに充実させ、二次試験に対応できる力と、生涯にわたって学び続けることができる力を身につけさせる。	4・3・2・1	

英語科					
重点目標：英語学習への意欲や関心を高め，自主的・主体的に学習に取り組む態度を身につけさせる。					
学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
1	①英語の基礎・基本を目標として身に付けさせる。	①単語・熟語テストで平均点 70 点以上。	①-1 毎時間、単語帳を使って、音読する時間を設け単語の定着を図る。 ①-2 毎週小テストを実施し、不合格者には、再試験や課題を与え学力の補充を図る。	4・3・2・1	
2	①英文読解力、読解力、語彙力、文法・語法の知識を伸ばす。	①小テストの平均点 70 % 以上。	①単語テスト、文法・語法テストを使った小テストを週 1 回ずつ行う。また不合格者には追試や個別指導を行い、学力の拡充を図る。	4・3・2・1	

	増やす。				
3	①英語力の完成を図り、入試にできる実践力を養う。	①リスニングを含めた大学入試センター試験の全国平均点と、校内平均点との差を10点以内にする。	①授業において、基礎基本の徹底を図り、模擬試験の結果を綿密に行い、その結果を参考にして授業方法や補習内容を検討し、改善策を練る。		
				4・3・2・1	

(2) 学習状況について

重点目標：					
学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
1	①早期に望ましい生活習慣を確立させる。	①平日の平均家庭学習時間 2.0 時間以上。	①-1 毎朝の SHR で家庭学習調査を実施する。それを担任・副担任でチェックし、生活状況を把握し、アドバイスや激励の言葉をかける。 ①-2 担任が必要に応じて適宜面談を実施する。 ①-3 生徒に進路意識を持たせるために、早期に進路講演会を行う。	4・3・2・1	
2	①家庭での学習習慣を定着させる。	①平均家庭学習時間 2.5 時間以上。	①-1 毎朝の SHR で「家庭学習時間調査」を担当、副担任がチェックする。学習時間、生活状況、また教科での学習の偏りなどについてコメントを記入し、声かけを行う。 ①-2 定期的に学年会を開き、生徒の学習状況の把握やその改善法について協議する。 ①-3 担任が必要に応じて面談を実施し、学習方法や進路についてアドバイスを行う。	4・3・2・1	
3	①進路に対する意識を高め、主体的に学習させる。	①平均家庭学習時間 3.0 時間以上。	①-1 生徒の進路を踏まえ、家庭学習記録を活用した面談を実施する。 ①-2 HR 活動、学年集会、進路講演会を通じて、生徒の進路に対する意識を高めるとともに、保護者との連携を深める。 ①-3 進路課と連携して進路検討会を充実させる。	4・3・2・1	

(3) 進路について

進路目標 (数値目標)	評価	改善点
①国公立大学合格率が卒業生の 30 % 以上。 ②進路保護者会を年間 3 回、進路だよりの発行を年間 2 回。 ③進路保護者会の出席率を 45 % 以上。		
	4・3・2・1	

※評価欄の上段には、各具体的目標における数値目標の達成状況について記入する。下段には、達成状況を「4 十分できた 3 概ねできた 2 あまりできなかった 1 できなかった」で判断し、該当番号に○を付ける。